

平成 28 年熊本地震における会員の被災状況報告

日本診療情報管理学会

このたびの熊本・大分地方を震源とする地震により亡くなられた方々にお悔やみ申しあげますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申しあげます。当学会会員の被災状況について、熊本県および大分県の会員から報告をいただきましたので、お知らせいたします。

※多くのご報告は5月中旬～6月中旬にいただいた内容となります。

※公開するにあたり一部内容を匿名化しております。

診療情報管理に関する被害状況について

<熊本県>

- 過去のカルテを保管するビルが応急危険度判定→赤（危険）のため、立ち入ることができません。また、カルテ棚が倒壊しており、過去のカルテを取り出すことができません。
- カルテ庫のカルテ棚がドミノ状に倒れ、カルテの中身が8年分混ざってしまいました。アクティブの2年分のカルテは別の場所に保管していましたが、この分はなんとか元に戻しています。元のような診療はできてはおりませんが、スタッフ一同頑張っております。ご心配いただきありがとうございます。
- 診療記録は電子カルテ化しておりサーバーに被害が及ばなかった為、電子カルテは問題なく動いています。紙カルテは入院、外来ともに院外の貸金庫に保管をしていますが、こちらは棚の破損などにより散乱しましたが、職員にて対応できる程度です。
- 4月14日の前震により、電子カルテの本サーバーが使用できなくなり、最後にデータのバックアップを取った時間から地震が発生した時間までの本サーバーのデータが取り出せなかったため、レセコンよりデータを引いて、業者やスタッフによる電子カルテへの再入力作業が発生しています。現在、日々の診療はバックアップサーバーを稼働して行っており、本サーバーの復旧については調査中ですが、多額の費用がかかる見込みです。診療情報管理室内の診療録やフィルムは落ちて散乱しました。施設面では、移動棚はハンドルが折れたり倒れたり動いたりした棚が部屋の壁などに当たって、破損している箇所があります。また、移動棚下方の転倒防止金具が曲がったことにより、動かなくなっている棚があります。フィルム棚は金属の仕切りが曲がったため、フィルムを立てて保管できず、棚の中に重ねて置いています。移動棚の破損修理の費用については、業者点検済みで、現在見積もり依頼中です。前震の翌日、他院や施設に転院された患者さん149名について診療情報提供書をお渡しするとともに、「電子カルテ用診療記録補助簿」という当院で運用している各個人ごとのファイルを情報として貸し出しています。すでに戻ってきているファイルもありますが、転院先の診療録に綴りこまれたり、患者さんが転院先からさらに転院されることがあったりしたため、その管理が課題となっています。

- 現在電子カルテでありシステムに問題はありますが、以前の紙カルテ（現在も同意書等に綴っている）の移動棚、除外倉庫の棚が破損し、修復には長時間かかりそうです。
- 紙カルテ保管庫の損壊（外来カルテ、入院カルテともに取り出し不可）。
- 情報管理室設置の棚の損壊によりカルテが散乱。現在は棚の修復が済み通常の管理体制となっています。
- 電子カルテを運用しているのでサーバーを含めた機器や、ネット環境の防災対策を検討していく方針です。
- 診療録（紙媒体）を管理している収納棚が一部倒壊しましたが復旧しました。
- 診療情報管理に関することも含め課題の洗い出しや今後の対策などについて院内で検討していく予定です。お気遣いいただきありがとうございます。今後ともよろしく願いたします。
- カルテ庫が崩壊し、整備、整理に時間がかかりましたが現在は復旧しています。
- 紙カルテは保管庫に入ることが出来ておりません。先日塩崎大臣も視察に来られました。民間病院ですので自力で頑張るしかありません。
- 診療情報管理課はほぼ順調と推測しております。ご心配いただき誠にありがとうございます。地域によっては大きな損害もでているようです。

勤務先の被害状況について

<熊本県>

- 前震後に救急搬入患者を 300 人超受け入れましたが、本震により病棟に被害を受け、入院患者すべてを転院させました。現在は入院診療をしておらず、外来診療と一時救急医療のみ復旧しています。
- しばらくは入院の受け入れや手術ができませんでした。ガスと水道が止まり建物の損壊もありましたが、他の病院ほど甚大な被害はありませんでした。現在は普通の診療体制に戻っています。
- 病院増築一部は傾きが目立ち、施設としての利用は出来ず修正工事をおこなっています。東側通路は沈下が起こり、段差ができています。2 週間ほど上水道水の不足が続いており、自衛隊の給水支援に頼る状態がしばらく続きましたが現在は戻りました。
- 入院患者すべて退院か転院で管理士の仕事がなくなりました。今後の仕事も心配ですが、もしかしたら医療事務の方に仕事を変更しないといけないかもしれません。
- 電子カルテ以外の帳票が地震によるスプリンクラーの損傷で水浸しになりました。
- ひび割れや破損はありますが、診療には問題なく入院、外来ともに行えています。

- 一部損傷あり。それ以外で困ったことは特にありません。
- 駐車場、救急車搬入口の道路の盛り上がり。壁のひび割れ、窓ガラス等の破損。
- 施設の立ち入りが出来ないということではなく、運営ができないことはありませんでした。現在は通常通り業務を行っています。(外来、入院、各種事業)
- 勤務先は建物倒壊の恐れがあるということで入院患者は全て退院、転院させた状態です。4月末より規模を縮小して外来を再開させましたが、検査、手術が行えないため他院へご紹介するケースが増えています。病院業務が減少しているため、病院の臨時職員は熊本市の他業務(避難場所や罹災証明業務)等に派遣されているのが現状です。
- ライフラインは2日後に復旧。PC 端末数台が倒れて破損。
- 診療は継続しておりますが、外壁や内壁その他備品など多数の被害がありました。また、カルテ倉庫の棚が倒壊しております。
- 一部損壊。4階建造物の4階部分が使用出来ず。下水がつまり水使用不可、現在緊急工事中。仮設トイレ設置。(5月下旬には復旧予定)
- 各階の廊下、階段、コンクリート壁のクラック。室内、廊下のクロスが剥がれ。コンクリート外壁のクラック。タイル壁の剥がれ。エキスパンションジョイント破損による段差。建具(ドア・窓)のひずみによる開閉不可。搭屋高架水槽の倒壊。厨房配管等の破損。雨漏り。事務室、管理室キャビネット、書棚等の倒壊。プリンタ、テレビ、本棚、キャビネット、椅子等の落下による破損。什器の移動。窓ガラスのひび。図書、各種書類の散乱。ブロック塀の倒壊等。
- 当日排水タンクの破損により188名の入院患者を全員県外(福岡、佐賀、宮崎)にDMATをお願いし転院させました。水による影響のみでしたので10日後には100名再入院させることができました。病棟は2病棟が休床状態です。職員も避難所通勤もあり、家屋の全壊もいます。
- 勤務先の病院は建物の被害はなく大丈夫でした。内部は資料、カルテ等、物が散乱してました。1ヶ月が過ぎて、落ち着きを取り戻しつつあります。
- 熊本県と福岡県の県境に病院があるため被災者の受診等の受け入れは行ったが震災でケガ(重症)をされた方の医療費等の扱いははっきりしていないこともあり、対応するのに、被災者(外国在住でたまたま帰国中)にケガされた方の検査、MRI等、保険適応でないことから、本人から様子をみたいと言われてたり、いろいろありました。
- 建物一部破損。現在診療には影響ありません。
- 本震後1週間ほどで手術も再開し、現在は通常通り診療を行っております。少しずつですが、復興に向けて進んでいるところです。

<大分県>

- 一か所だけ天井のパネルが落下しました。それ以外特に目立ったことはありません。調査ありがとうございます。
- 病院敷地内の地面のひび割れ、旧カルテ庫のカルテ棚が倒壊。
- 建物などの損壊もなく問題ありません。
- 勤務先ならびに自宅とも被害はありませんでした。
- 調査ありがとうございました。勤務地とも問題ありませんでした。

自宅の被害状況について

<熊本県>

- 自宅も被災して車中泊でした。屋根瓦が落ちてブルーシート状態です。
- 敷地内漏水。建具の修理待ち状態です。
- 地盤亀裂に伴う家屋の傾斜。家屋に損傷はありませんが安全性を考え引っ越しを致しました。(約1年間の予定)
- 壁、床の部分的なへこみ、床のきしみ(生活上の問題なし)。
- ブロック塀の倒壊、家具の破損。ライフライン10日後に復旧。
- 壁にひび、家具倒壊。
- 半壊しており居住不可です。
- 一部損壊(現在居住中)。
- 自宅は瓦が落ちる等被害がありました。
- 内部の壁に一部ひび割れがみられますが当面は問題なく生活しております。近々損傷状況をチェックしてもらう予定です。
- 自宅は一部損壊であったが生活できている。
- 本震後の停電(15時間位)と建物と地面の段差(程度はそんなにひどくはない)と、広い部屋に関して壁面のひび、天井との角部分の隙間発生。全体的には軽微。
- 自宅も大きな被害はなく、数日避難所や車中泊にて過ごしましたが無事でした。
- 特に被害があったということではないですが、自宅の一部(壁のタイル)が剥がれたくらいで済んでおります。
- お見舞いのお手紙ありがとうございます。当方は特に大きな被害もありませんでした。

